

農園通信 1 月



年明けとともに、蠟梅が開花しました。

学生向け講座が終わり、静まり返った農園に春の訪れです。

蠟梅に加え、落の臺も姿を見せています。まだまだ硬い臺ですが、



月が替わる

頃には春の香を届けてくれるでしょう。



この季節の畑の緑の一つが、大麦です。学生実習時に麦茶を作るために栽培しています。12月初めに播種し、これから2度の麦踏を行い、本格的な春とともに緑を増し、6月初旬に収穫します。

ダイコン組の学生が収穫した聖護院ダイコンに写真のような奇形がありました。

聖護院大根は青首大根に比べれば葉の数が多いのですが、これは3か所から葉が出ているものでした。

作物を栽培していると様々な奇形が出てきます。気に留めなければ見すごしてしまう小さなものもたくさんあると思います。



昨年は蜜柑も柚子も裏年ということで結果が少なく、蜜柑の市場価格も高いようです。裏年に加えてカメムシに被害が大きく、収穫を妨げたようです。大学のある坂戸市の隣町、毛呂山町、越生町は柚子の産地ですが、イベントが中止や縮小となるなどいかに不作であったかが伺えます。

農園の本柚子は5個しかならず、獅子柚はわずかに1個だけでした。その1個も写真のとおり何とも言えない形でした。